

独立行政法人雇用・能力開発機構福岡センター 訪問調査

訪問日時： 平成19年12月10日 10:00～12:00

訪問者： 高橋健一，中道つかさ

対応者： I氏（調査役 相談部門長）

場所： 独立行政法人雇用・能力開発機構福岡センター

学び直し講座における情報を得る為に、博多区の能力開発機構福岡センターを訪問した。
能力開発機構では求職者支援の方法として2つの講座を開設している。

訓練コース

IT・パソコン関連や各種事務関連

就職に必要な知識・技能を、各種学校・専修学校等に委託して受講料無料（教材費別）で実施。さらに若年求職者向けのYコースを実施している。

アビリティークース

求職者の再就職の為に新たな職業に必要な知識や技能を身に付ける職業訓練。

実施場所

飯塚職業能力開発促進センター

八幡職業能力開発促進センター

九州職業能力開発大学校

- ・ 求職者、在職者向けの講座は平日の昼間、夜間に行われている。受講者の要望としては土日もある。
- ・ 講座時間帯の要望は、求職者は昼間に、在職者は仕事終了後の夜間に、というようにはっきりと分かれている。
- ・ ニート専用の講座は無いので講座の時間帯や内容の要望は把握していない。
- ・ 職業訓練講座の内容としては受験資格が実務経験年数を問わない資格試験対応の講座が多い。
- ・ 職業訓練施設の大きな地域として熊本や北九州がある。

大分若者自立支援の会 ステップ 訪問調査

訪問日時： 平成19年11月2日 15:10～16:10

訪問者： 工藤康紀委員長，軽部周委員

対応者： 若菜 洋樹 （ステップ副理事長，E-mail: h-wakana@oct-net.ne.jp）

・鶴崎にあるステップを訪問．会員40家族，支援者（大学教授など）20名程度．佐伯に支部がある．サポステとも協力体制を作っている．ステップの事務所兼居場所のことを，「ほっとハウス」という．

・ステップの前身は，「ひきこもりの親の会」であり，ひきこもり本人よりも，その家族の不安を無くす活動を進めている．これにより，家庭の雰囲気良くなることでひきこもりが治るケースもある．会員以外に，月2回の対外向け相談を実施．

・植田の「ハートコムおおいた」内に「フリーダム」という組織があり，ニート・ひきこもりの人はまずここに入ってからステップに来る．フリーダムでは，症状の軽い人の集まりが月1回ある．やる気のある人は府内学園に紹介している．

・若菜さんは不登校・ひきこもりの研究者．講演経験も多数．講演内容は，ひきこもりだった若菜さん自身の体験など．

・日本でのニートとは，統計上カテゴライズしづらい人の総称．団塊世代Jr.，R25世代，就職氷河期世代などと呼ばれる20代後半の人が多い．

・ニートの中でも症状が軽く，社会復帰を望んでいる人のことを「求職型ニート」という．ニートの人は，社会のスピードについていけないが，職人気質で真面目な人が多い．従って，CADなどの専門技術の習得に向いていると思われる．短距離走よりも長距離走で力を出すタイプ．ニートの人はコミュニケーションが苦手なので，休み時間など「することが何も決まっていない時間」にストレスを感じる．ニートの人に向いているのは，「学生がしゃべらなくても良い授業」．

・ニートの人は，目新しい環境が苦手である．来るだけで良い説明会や体験授業をすると良い．事前情報が何も無いところには行かない傾向があるので，授業風景を紹介した写真の多いリーフレットを配布して対象者に配ると，安心して来ることが多い．高専の紹介ビデオを作るのも良い．（ニートの人は，社会につながるための情報に飢えている．大分高専のPRなど，外部への情報量を増やす必要がある．）

・リーフレットを作る場合，将来のイメージが具体的にわかるものにすること．「CADを学習して，念願の就職ができました！」などの卒業生の声が，写真と文章でわかりやすく入っていると好印象．「授業を受けると，将来こんなことができる」というイメージが具体的にあれば，大分高専の独自資格でも何ら問題ない．

・思春期（高校）以降の人は自我ができるので，一方的なおしつけは駄目．先生が，自分の挫折経験などを話すと親しみをもたれる．トラブルになりづらい行動を教える方針が良い．

・アスペルガー症候群などの軽度発達障害者は年々増加しており，一般学生の中にも増えてくる．今回の学び直しの試みにより，そのような学生への対処のノウハウを蓄積することが大切．

・毎月会報を出しているので，その中に大分高専の学修講座のことを掲載することは可能である．

講演会出席報告書

日 時：平成19年10月24日（水）10：10～

場 所：ソフィアホール（大分市東春日町 17-20 第2ソフィアプラザビル2F）

出席者：亀野，前（敬称略）

講演会について

青少年自立支援センター おおいた地域若者サポートステーションにおける開所記念講演が「青少年自立支援講演会」と題して行なわれた。その講演会に亀野と前が聴講。100名以上の人員を収容できるホールで行なわれ、用意された席はほぼ満席と盛況であった。

開会に先立って、ニートやひきこもりの若年者数は全国で64万人、大分においては4千人にまでのぼることから、そういった若年者に対してキャリアカウンセラーによるカウンセリングや臨床心理学をもとにしたサポートなどを行ないながら支援していくものであった。

続いて、若菜洋樹氏（NPO法人 大分若者自立支援の会ステップ 副理事長）と中村廣光氏（別府大学短期大学部 教授）による基調講演が行なわれた。

基調講演について

若菜氏は、「不登校、ひきこもり、そして今・・・」という題目で、自身の体験談から得たことや、現在に至って思うことについて講演された。その講演の中で、前向きに考えること（無理はしない。出来る範囲のことはやる。）や、自身の内面から外側に向かっていった過程におけるタイミングやきっかけの重要性、また、不登校やひきこもりの人間への配慮について話された。

中村氏（臨床心理士）は、「ニート・ひきこもり青少年の自立支援のあり方について」という題目で講演された。講演の冒頭に、「ニート・ひきこもりの誤解」について説明し、正しい理解をするために必要な考え方を説かれた。また、自立支援を支える3つの立場を論じたうえで支援のプロセスについて話し、ニートひきこもりの自立支援のポイントを説明された。

講演と学び直し教育について

聴講して、講演内容と学び直し教育との関連する部分について以下に挙げる。

- ・ 若菜氏の講演から、自身の体験で通信制高校への編入の話があった。状況に応じては、人に会わずに学習できる環境の提供について検討する必要がある。
- ・ 中村氏の講演で、個々人のニーズと適正に応じられる多様なメニューと就労への連結が求められるとあり、今回のプロジェクトの授業でサブライできるものは決まっているので、受講者のニーズにマッチしているかを授業の前に確認する必要がある。
- ・ 就労斡旋において、就労経験者の前歴の分析が重要と話されており、その点についてはアンケートで整理する必要があると確認できた。
- ・ 自立支援のポイントとして、連携による決め細やかな相談援助体制を形成することが重要とであり、サポートステーションなどの機関との連携を深める必要があると考えられる。また、当事者（とりわけ親などの保護者）も重要なポイントになると説明された。

NPO法人 「心の支援センター」訪問（10月17日）

2007/10/17

- 心の支援センター副理事長H氏、他数名との面談結果（工藤、清武 出席）
- ・ 場所：大分県宇佐市大字下拝田506の1
大分会場：大分市畑中8-10 電話 097-534-7744
- ・ ここでは就業支援はしてない。
- ・ 宇佐会場は土曜日、大分会場は水曜日のみで10:30～16:00、竹田会場は火曜日に実施。
- ・ カウンセリングを通じて、自分を見つめることにより心のケアをすることを目的として活動する。30人程度のカウンセラーがいて相談に応じる。カウンセラーの養成をしている。
- ・ ストレスや不安を抱えている人に対して、来談者中心の非指示的カウンセリング（カール・ロジャース提唱）を行う。
- ・ 就業支援ではなくて、その前の段階の「自分の評価が気になる人、自分を否定している人、ダメと思い込んでいる人」に対して、カウンセリングを行っている。
- ・ 講演会・シンポジウム・ワークショップやカウンセラー養成講座を実施し、そこに来た人の相談を中心にしている。これらは、新聞やチラシで参加を呼びかけている。
- ・ カウンセラー養成講座を受けてカウンセラーの資格を身に付けた人もいる。
- ・ ほとんどが大人であり、社会人である。不登校生もいる。
- ・ T南高校では、20歳前後の人もいる。以前ニートであった人など。
- ・ 本校の事業計画書を説明、理解を求めた。事業内容には賛同を得たようで、今後、アンケートを取る際にも協力してくれるとのこと。

「フリースペースばずる」訪問（10月15日）

2007/10/16

- 理事のK氏との面談結果（工藤、前 出席）
- ・ 場所：大分県大分市旦の原ハイツ880-96
グリーンコープ生協旦の原福祉センター（1・2F）
（HPから、利用料 ・入会金 :1万円 、 ・月利用料:2万円）
- ・ 不登校の子ども達の居場所を提供、障害を持つ子ども達の放課後デイサービス提供、さらに、大人も参加可能。来た子ども達は、基本的に自由に活動している。インターネットをしている子どももいる。
- ・ 現在の登録者は、3名で、小学生1名、通信制高校生2名（16歳から18歳）。この3名は不登校者。その他にも、常時来ている人がいる。（主に、障害を持つ人）
- ・ ここに来れば何とかなるが、本人が来られずに親が来る場合が多い。
- ・ 本校の事業計画書を説明、理解を求めた。事業内容には賛同を得たようで、今後、アンケートを取る際にも協力してくれるとのこと。
- ・ アンケートを取るときの言葉はできるだけ軟らかい方が良いと言われた。（説明に使った書類は文科省に提出したものであったので、堅い言葉が多かった）
- ・ 講習参加者を募集するときは、一部に限定せずに柔軟に対応できるようにした方がよい。
- ・ 講習が無料であれば、参加したいというフリーターはいるだろう。ただ、そのような人にどうやって講習会の存在を知らせるかの工夫がいる。
- ・ インターネットに載せる場合は、検索者（ニート・フリーター等）が分かりやすいような「検索に掛かりやすいキーワード」を使うような工夫が必要。

○大分県私学振興・青少年課：M主幹、I課長補佐、
主幹に本校の事業内容を説明の後、下記のNPO法人等を紹介していただいた。

●府内学園教務主任 Z先生との面談結果。

府内学園は、昨年度、「再チャレンジ」（文部科学省）で採択を受け、2コースで実施。

1コースは、途中で落ちこぼれた生徒に、数学、英語、国語を分かりやすく教えて基礎力を身につけさせる内容。

2コースは、洋裁、お菓子等の実技を身につけさせて就職支援を行う内容。

昨年度は、合同新聞で募集をしたら、計17名が応募。

落伍者はなかった（途中1名は就職がきまりコースからはずれた）。

府内学園は場所が利便性の高いところにあるので、受講生も集まりやすいのではないかと
いうことでした。

教員は言葉使いに細心の注意を払った（ニート、フリーター等の言葉は使わないようにし、
元気づけるように励ました）。

お菓子等は専門学校と提携して行った。

問題点は、人の（教員）やりくりが大変であった他は、特になかった。

●おおいたサポステ ～おおいた地域若者サポートステーション～

（株式会社 ベンチャーラボ T様との面談結果）

：自立支援センターの中に窓口

新規に訪れるのは、2日に1名程度、9月は12名が新規に登録。実際は、親が来るこ
が多く、本人は自宅に居るケースが多い。

ニートの人が講習会へ参加するとしても、高専などの学校は無理でしょう。ここのサポ
ステや「アイネス」などならOKだろう。また、町の中心から少し離れたところの方が返っ
て来やすい。人目に付きにくいところの方が良い。駅前等は不可。移動方法は、電車、バ
ス、自転車、歩きなど。

●NPO法人「アスパル」（大分市大手町）Hさん

現在の登録は、20数名（中学生3名、高校生4、5名、それ以上10数名）。

彼等にアンケートを実施することは可能です。

開設時間は、10：00～16：30。

その他に紹介頂いた主なNPO法人

・大分若者自立支援の会（大分市千歳に移転）

・フリースペースぱずる（旦野原）

・心の支援センター（宇佐市）

・大分教育支援協会（金池町） >>> 府内学園とは、少し異なる。ただし、スタッ
フはほとんど同じである。

●電話での問い合わせ結果

府内学園で実施しているのは、（文部科学省の事業で）対象者がニートといわれる人。基本
的に18歳以上。（18歳以下は対象外）また、府内学園に来ることができない人も対象外。
大分教育支援協会では、中卒以上を対象としている。引きこもりや学校に行けない人も対
象としている。府内学園で対応できない場合は他のNPO法人への橋渡しをすることもある。